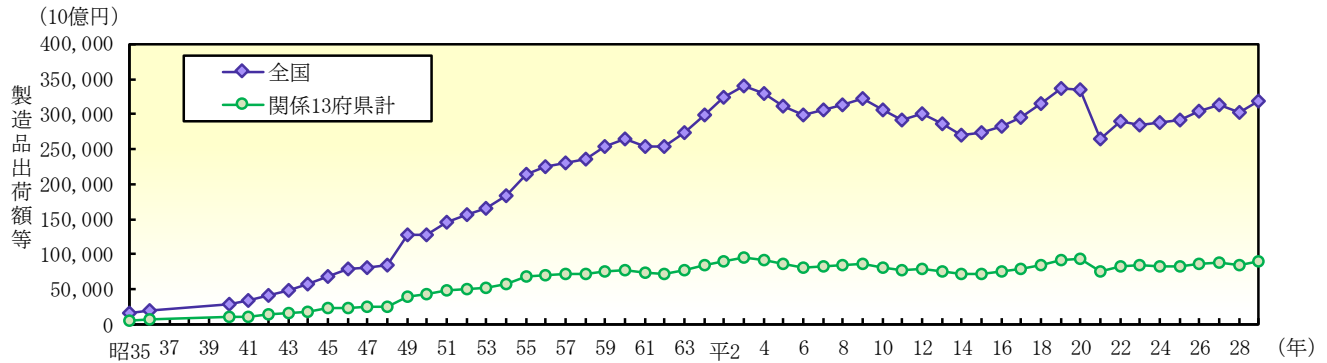


2 産業の現況

2.2 工業等の動向

瀬戸内海は、工業用地に適した遠浅の海岸が多く、背後に大都市を抱えていたことから工場の立地に適しており、高度経済成長期にはコンビナートの形成を軸に重化学工業化が推進された。

瀬戸内海沿岸地域における工業出荷額の全国に占める比重は低下しているものの鉄鋼業といった主要基幹産業の生産能力はなお40%以上を占めている。関係13府県における製造品出荷額等の推移を図2-2に示す。



- 注) 1. 昭和55年までは従業員1人以上の事業場の出荷額であるが、昭和56年以降は4人以上の事業場の出荷額である。
 2. 平成6年の兵庫県については、阪神・淡路大震災発生に伴い、被災地の一部においては調査票の回収が困難で回収されたものみの数値。
 3. 製造品出荷額等の集計項目は以下のとおりである
 平成18年以前：製造品出荷額等＝製造品出荷額＋製造工程から出たくず及び廃物の出荷額＋加工賃収入額
 平成19年～平成26年、平成28年～平成29年：製造品出荷額等＝製造品出荷額＋製造工程から出たくず及び廃物の出荷額＋加工賃収入額＋その他の収入額（修理料収入等）
 平成27年：製造品出荷額等＝製造品出荷額＋加工賃収入額＋製造業以外の収入額

出典：平成26年以前、平成28年～平成29年：「工業統計表」（経済産業省）
 平成27年：「経済センサス-活動調査」（総務省・経済産業省）

図2-2 関係13府県における製造品出荷額等の推移

表2-3 関係府県別製造品出荷額等一覧表

(単位：10億円)

年	昭和35	40	45	50	55	60	平成2	7	12	17	24	25	26	27	28	29
全国計	15,579	29,489	69,035	127,521	214,700	265,321	323,373	306,030	300,478	295,346	288,728	292,092	305,140	313,129	302,036	319,167
京都府	332	616	1,430	2,395	3,903	5,119	6,289	6,014	5,886	4,870	4,646	4,561	4,815	5,322	5,449	5,736
大阪府	2,096	3,590	7,834	12,266	19,052	22,042	24,553	20,889	18,020	16,302	16,023	16,024	16,529	16,686	15,820	16,996
兵庫県	1,156	1,972	4,394	7,467	11,211	12,958	15,424	14,403	14,070	13,478	14,347	14,027	14,888	15,446	15,105	15,666
奈良県	58	129	422	801	1,400	1,903	2,490	2,532	2,418	2,156	1,758	1,848	1,897	1,845	1,819	2,092
和歌山県	201	388	733	1,837	2,620	2,613	2,501	2,256	2,265	2,780	2,867	2,972	2,995	2,648	2,613	2,665
岡山県	232	509	1,465	3,280	5,757	6,602	6,868	6,863	6,370	7,296	7,628	7,674	8,256	7,789	7,092	7,603
広島県	387	846	2,029	4,017	6,005	6,962	8,931	7,716	7,218	7,787	8,343	8,556	9,568	10,343	9,941	10,171
山口県	350	607	1,260	2,609	4,353	4,790	4,962	4,897	4,838	6,025	6,086	6,798	6,520	6,303	5,609	6,110
徳島県	55	112	275	580	918	1,170	1,455	1,465	1,505	1,606	1,680	1,712	1,784	1,698	1,700	1,781
香川県	83	171	486	1,088	1,957	2,064	2,426	2,387	2,146	2,160	2,985	2,284	2,371	2,492	2,462	2,576
愛媛県	196	370	841	1,697	2,732	3,154	3,307	3,581	3,467	3,435	4,030	4,068	4,139	4,095	3,814	4,178
福岡県	647	962	1,858	3,551	5,834	6,512	7,711	7,816	7,368	7,752	8,334	8,193	8,434	9,216	9,250	9,738
大分県	82	143	369	938	2,105	2,126	2,587	2,742	3,087	3,672	4,261	4,383	4,559	4,270	3,695	4,095
関係13府県計	5,875	10,415	23,396	42,526	67,847	78,015	89,504	83,561	78,658	79,319	82,988	83,100	86,755	88,153	84,369	89,407
(B)/(A) %	37.7	35.3	33.9	33.1	31.6	29.4	27.7	27.3	26.2	26.8	28.7	28.4	28.4	28.2	27.9	28.0

- 注) 1. (B) / (A) %は(13府県/全国) × 100
 2. 昭和55年までは従業員1人以上の事業場の出荷額であるが、昭和60年以降は4人以上の事業場の出荷額である。
 3. 製造品出荷額等の集計項目は以下のとおりである。
 平成18年以前：製造品出荷額等＝製造品出荷額＋製造工程から出たくず及び廃物の出荷額＋加工賃収入額
 平成19年～平成26年、平成28年～平成29年：製造品出荷額等＝製造品出荷額＋製造工程から出たくず及び廃物の出荷額＋加工賃収入額＋その他の収入額（修理料収入等）
 平成27年：製造品出荷額等＝製造品出荷額＋加工賃収入額＋製造業以外の収入額
 出典：平成26年以前、平成28年～平成29年：「工業統計表」（経済産業省）
 平成27年：「経済センサス-活動調査」（総務省・経済産業省）

2 産業の現況

表 2-4 主要業種別製造品出荷額等一覧表

(単位：億円)

		昭和35	40	45	50	55	60	平成2	7	12	17	24	25	26	27	28	29
食料品	全国 (A)	19,266	38,844	71,506	151,305	225,126	291,502	330,739	347,314	348,210	323,435	339,174	344,485	355,328	373,913	382,001	385,714
	瀬戸内海関係(B)	6,245	11,590	23,283	45,678	64,397	82,203	94,468	97,544	92,055	83,034	92,787	89,466	91,259	97,615	102,164	101,486
	(B)/(A)%	32	30	33	30	29	28	29	28	26	26	27	26	26	26	27	26
繊維工業	全国 (A)	17,415	26,023	43,899	64,573	81,053	80,870	78,381	42,301	30,081	21,087	39,228	37,679	38,223	35,941	38,149	37,622
	瀬戸内海関係(B)	6,121	9,108	15,525	23,318	30,508	29,545	27,749	14,208	9,978	8,411	14,225	13,810	14,013	13,017	14,057	13,721
	(B)/(A)%	35	35	35	36	38	37	35	34	33	40	36	37	37	36	37	36
パルプ・紙加工品	全国 (A)	6,007	11,178	22,696	42,102	67,993	73,889	88,117	84,988	79,339	70,892	68,148	67,411	69,744	71,018	72,731	73,837
	瀬戸内海関係(B)	1,894	3,489	6,914	12,722	20,104	22,098	27,117	26,495	23,006	20,940	19,512	19,411	20,358	19,880	20,886	21,265
	(B)/(A)%	32	31	30	30	30	30	31	31	29	30	29	29	29	28	29	29
化学工業	全国 (A)	14,636	26,140	55,402	104,381	179,787	205,524	235,029	233,625	237,622	250,271	260,379	274,092	281,230	283,269	272,496	287,242
	瀬戸内海関係(B)	6,619	12,351	23,868	44,332	71,941	80,441	87,996	84,625	84,071	89,165	92,788	96,437	99,073	99,609	96,014	101,427
	(B)/(A)%	45	47	43	42	40	39	37	36	35	36	36	35	35	35	35	35
石油製品 石炭製品	全国 (A)	3,716	8,193	17,911	75,721	151,977	129,479	82,975	76,352	94,336	134,293	170,773	176,756	186,591	142,727	115,804	132,867
	瀬戸内海関係(B)	1,890	3,207	7,005	31,869	60,715	51,766	32,031	31,744	38,895	57,057	76,355	75,261	73,259	33,655	48,981	55,702
	(B)/(A)%	51	39	39	42	40	40	39	42	41	42	45	43	39	24	42	42
鉄鋼業	全国 (A)	16,517	26,836	65,648	113,063	178,956	177,543	182,687	140,727	119,273	168,964	180,121	179,053	192,022	175,527	156,693	176,867
	瀬戸内海関係(B)	8,995	14,083	34,958	60,608	87,621	87,666	85,590	65,457	55,021	80,194	86,282	87,497	93,970	86,546	76,232	87,461
	(B)/(A)%	54	52	53	54	49	49	47	47	46	47	48	49	49	49	49	49

注) 1. 瀬戸内海関係は 13 府県の合計

2. 昭和 55 年までは従業員 1 人以上の事業場の出荷額であるが、昭和 60 年以降は 4 人以上の事業場の出荷額である。

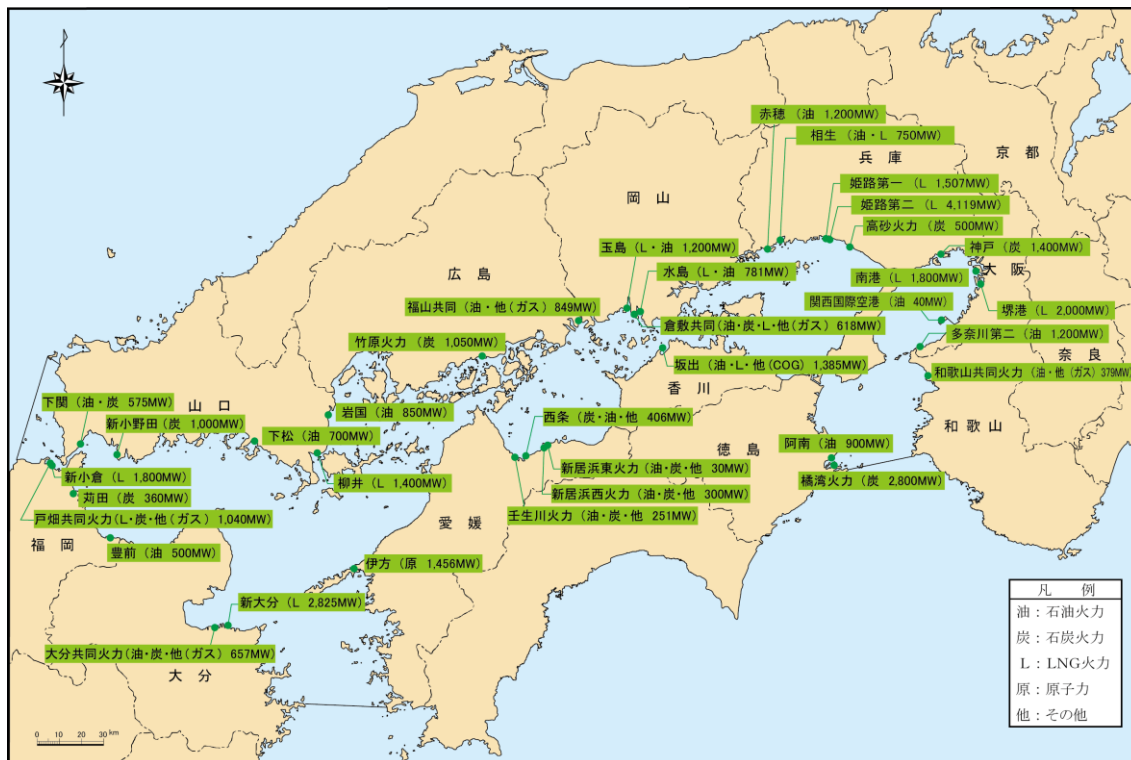
3. 「食料品」は「食料品製造業」と「飲料・たばこ・飼料製造業」を合計したものである。

4. 平成 23 年～平成 25 年の瀬戸内海関係の「石油製品・石炭製品製造業」は、徳島県の秘匿措置分を含まない値である。

5. 平成 27 年の瀬戸内海関係の「石油製品・石炭製品製造業」は、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、大分県の秘匿措置分を含まない値である。

出典：平成 26 年以前、平成 28 年～平成 29 年：「工業統計表」(経済産業省)

平成 27 年：「経済センサス - 活動調査」(総務省・経済産業省)



注) 令和元年 12 月末現在

出典：各電力会社のホームページより作成

図 2-3 発電所の位置及び出力

2 産業の現況

瀬戸内海では、高度経済成長期にコンクリート骨材や埋立に使用する膨大な量の海砂利が採取されていたが、海底地形や底質が変化し生態系への悪影響が懸念されたため、平成10年に広島県で採取が全面禁止されたのを皮切りに瀬戸内海沿岸11府県で禁止措置が取られてきた。平成20年度以降の瀬戸内海海域の海砂利採取については、大分県における航路浚渫に伴う海砂利採取以外は実施されていない。

また、これらの産業における基盤となる発電所及び長大橋の設置状況を図2-3、図2-4に示す。

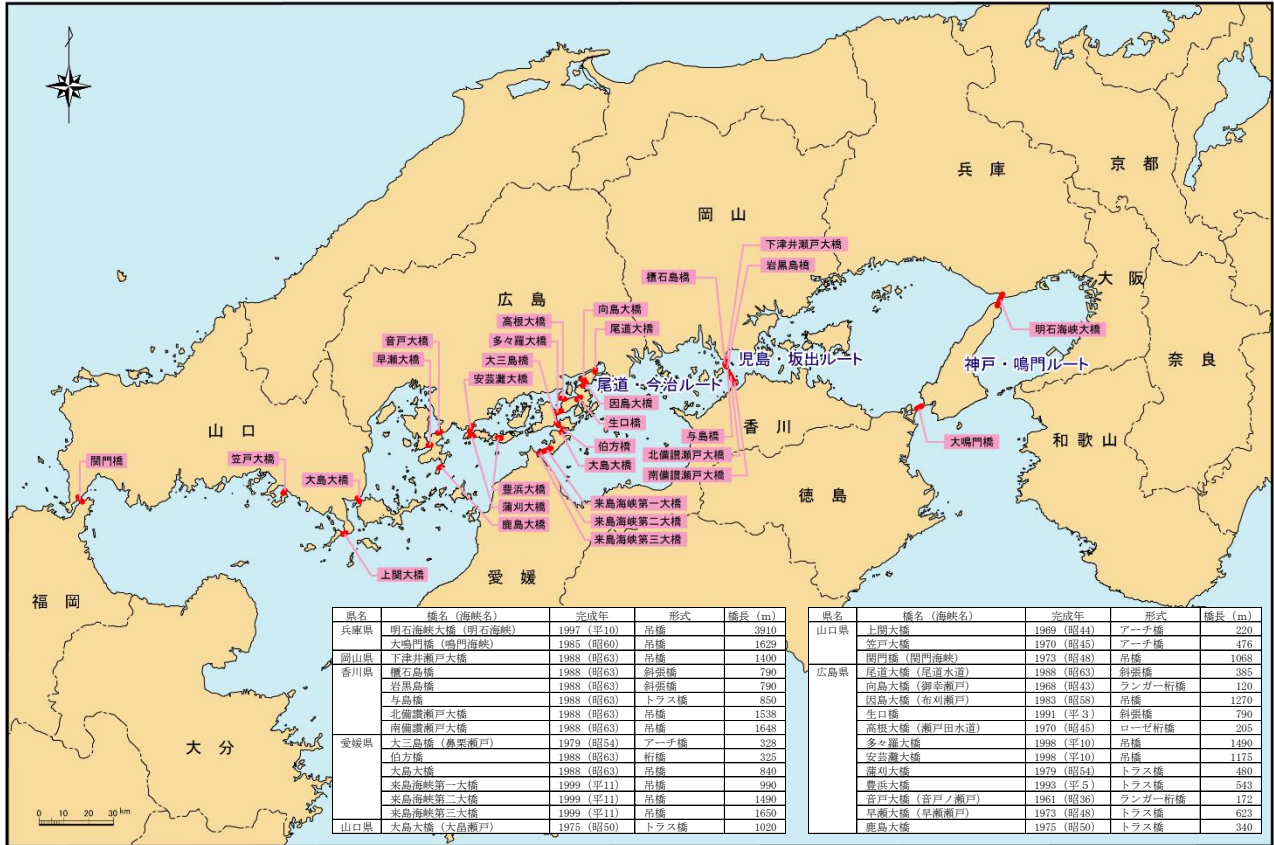
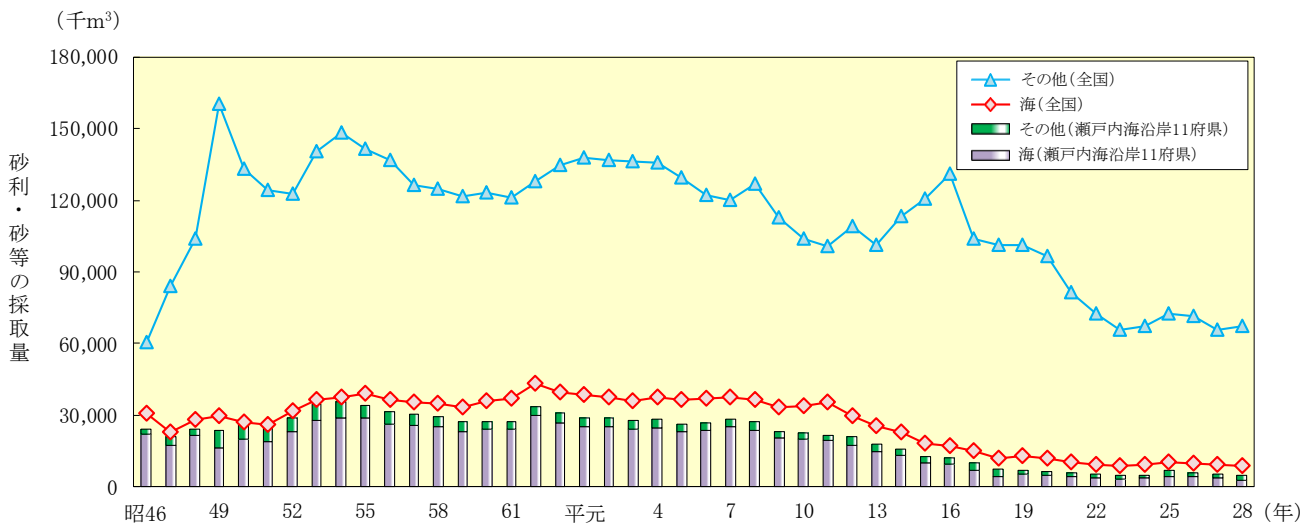


図2-4 瀬戸内海的主要長大橋



注) 1. 「砂利」とは、砂利、砂、玉石、玉石砕石をいう。
 2. 「その他」とは、河、山、陸、その他の砂利の合計である。「海」は海砂利を表す。
 3. 山口県、福岡県及び大分県の「海砂利」採取量については瀬戸内海海域以外を含む。
 出典：砂利採取業務状況報告書集計表（経済産業省、国土交通省、平成30年9月）より作成

図2-5 瀬戸内海における砂利・砂等の採取量の推移

2 産業の現況

表 2-5 瀬戸内海沿岸 11 府県における砂利の採取状況

(単位:千 m^3)

年度	項目	海			その他			合計		
		11府県計 (A)	全国 (B)	(A)/(B) (%)	11府県計 (A)	全国 (B)	(A)/(B) (%)	11府県計 (A)	全国 (B)	(A)/(B) (%)
昭和46		22,144	30,578	72	2,284	60,428	4	24,428	91,006	27
50		28,133	34,418	82	7,310	119,380	6	35,443	153,798	23
55		28,727	38,936	74	5,586	141,322	4	34,321	180,268	19
58		25,021	34,966	72	4,538	124,611	4	29,558	159,577	19
60		24,093	35,755	67	3,203	123,072	3	27,296	158,827	17
61		24,356	36,821	66	3,191	120,947	3	27,547	157,768	17
62		29,719	43,529	68	4,115	127,637	3	33,834	171,166	20
63		27,056	39,400	69	3,897	134,590	3	30,953	173,990	18
平成元		25,512	38,541	66	3,538	137,871	3	29,050	176,412	16
2		25,491	37,751	68	3,382	136,676	2	28,873	174,427	17
3		24,254	35,802	68	3,445	136,058	3	27,699	171,860	16
4		24,904	37,481	66	3,350	135,937	2	28,254	173,418	16
5		23,179	36,634	63	3,121	129,252	2	26,300	165,886	16
6		23,945	37,091	65	3,000	122,291	2	26,945	159,382	17
7		25,152	37,794	66	3,283	119,941	3	28,435	158,969	18
8		23,913	36,664	65	3,588	127,020	3	27,501	163,684	17
9		20,395	33,429	61	3,009	112,718	3	23,404	146,147	16
10		19,902	33,780	59	2,699	103,696	3	22,601	137,476	16
11		19,281	35,373	55	2,125	100,544	2	21,407	135,917	16
12		17,399	29,957	58	3,678	108,951	3	21,078	138,907	15
13		14,940	25,385	59	2,863	101,123	3	17,805	129,373	14
14		13,213	23,098	57	2,848	113,180	3	16,061	136,278	12
15		9,881	18,125	55	2,834	120,437	2	12,715	138,562	9
16		9,435	17,260	55	2,676	130,844	2	12,111	148,104	8
17		7,072	15,004	47	2,929	103,788	3	10,001	118,792	8
18		4,628	12,003	39	2,651	101,148	3	7,279	113,151	6
19		5,160	13,151	39	1,826	101,044	2	6,985	114,194	6
20		4,931	11,928	41	1,720	96,534	2	6,651	108,462	6
21		4,309	10,295	42	1,674	81,504	2	5,984	91,799	7
22		3,687	9,515	39	1,901	72,634	3	5,587	82,149	7
23		3,420	9,067	38	1,412	65,549	2	4,832	74,616	6
24		3,640	9,166	40	1,503	67,148	2	5,143	76,314	7
25		4,302	10,395	41	2,452	72,292	3	6,753	82,687	8
26		4,311	10,062	43	1,840	71,373	3	6,151	81,435	8
27		3,846	9,471	41	1,536	65,971	2	5,383	75,442	7
28		3,053	8,817	35	1,941	67,199	3	4,995	76,016	7

注) 1. 「砂利」とは、砂利、砂、玉石、玉石碎石をいう。
 2. 「その他」とは河、山、陸、その他の砂利の合計である。「海」は海砂利を表す。
 3. 山口県、福岡県及び大分県の「海砂利」採取量については瀬戸内海海域以外を含む。
 4. 四捨五入の関係で、合計が一致しない場合がある。
 出典：砂利採取業務状況報告書集計表（経済産業省、国土交通省、平成 30 年 9 月）より作成

表 2-6 府県別砂利採取量(平成 28 年度)

(単位:千 m^3)

項目	大	阪	兵	庫	和	歌	山	岡	山	広	島	山	口	徳	島	香	川	愛	媛	福	岡	大	分
海	0	0	0	0	0	0	0	0	0	631	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,324	98		
その他	134	83	413	83	12	356	320	41	47	110	342												
計	134	83	413	83	12	987	320	41	47	2,434	439												

注) 1. 「砂利」とは、砂利、砂、玉石、玉石碎石をいう。
 2. 「その他」とは、河、山、陸、その他の砂利の合計である。「海」は海砂利を表す。
 3. 山口県、福岡県及び大分県の「海砂利」採取量については瀬戸内海海域以外を含む。
 4. 四捨五入の関係で、合計が一致しない場合がある。
 出典：砂利採取業務状況報告書集計表（経済産業省、国土交通省、平成 30 年 9 月）より作成